シンポジウム 5 「診療ガイドラインと漢方」

S5-4
診療ガイドラインに漢方のエビデンスを反映させるには：論文作成とエビデンス検索の方法論

新井（あらい） 一郎（いちろう）（日本薬科大学薬学部漢方薬学分野）

診療ガイドライン(CPG)に漢方のエビデンスが掲載されるためには、CPG作成者が、漢方のエビデンスを「みつける」必要がある。しかし、漢方のエビデンスをもれなくみつけることは容易ではない。そのことをCPG作成者が自覚していない場合、簡単な検索ですませ、実際にはエビデンスが存在するのに、「エビデンスは存在しない」と判断してしまう可能性がある。本報告では、この誤った判断を防ぐために、(1)漢方論文作成時の注意点、(2)漢方のエビデンスをもれなく検索する方法、を紹介する。

(1)「みつかりやすい」論文の作成方法

「○○疾患に有効な薬物は何か」というリサーチ・クエスチョンの場合、疾患名でPubMedやThe Cochrane Library、医学中央雑誌(医中誌)などの検索が行なわれる。検索結果の中には漢方論文も含まれるため、目視での選択を誤らない限り、漢方のエビデンスは「みつかる」。しかし、「○○疾患に有効な漢方薬はあるか」というリサーチ・クエスチョンの場合、検索者は、疾患名と、漢方(Kampo)で検索を行う。日本語データベースの場合、問題は少ないが、英語データベースの場合には、これでは、全ての漢方論文は検索されない。著者はPubMedに設けられた"Medicine, Kampo"というMeSHが付与されるよう、論文に工夫をしておく必要がある。

(2)「みつけやすい」検索の方法

漢方製剤のRCT以上のエビデンスだけでよいのなら、日本東洋医学会EBM委員会が作成している「漢方治療エビデンスレポート(EKAT)」(http://www.jsom.or.jp/medical/ebm/er/index.html)を用いるのが、最もよい方法である。しかし、RCTがなされていない疾患においては、もっとグレードの低いエビデンスまでの検索が必要になる。医中誌など、日本語データベースでは検索は容易であるが、英語データベースでは、上記のように、"Kampo"だけでは、全ての漢方論文は検索されない。そこで、EKATにおいて、The Cochrane Library(CENTRAL)検索に用いている方法を紹介する。ただ、これだけでももれはあるため、自社製品の論文を蓄積している各漢方薬メーカーへの問い合わせも併用すべきである。

略歴

1979年 富山大学 薬学部　卒業
1982年 富山医科薬科大学大学院 医療薬科学研究課程（前期）修了
1982年 株式会社 津村順天堂（現・株式会社ツムラ）（～2014年3月）
1998年 博士（薬学）昭和大学
2004年 日本東洋医学会 EBM委員会　（継続中）
2014年 日本薬科大学 薬学部 教授